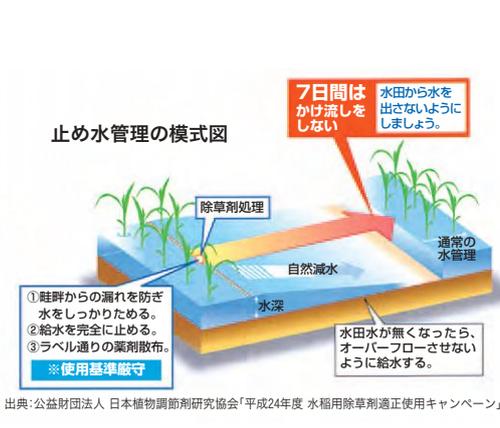


水稻

除草剤を上手に使う

④ 雑草の葉齢に気をつけ、散布適期を逃さない
 除草剤は防除適期の葉齢を逃してしまうと効果が低下します。雑草の

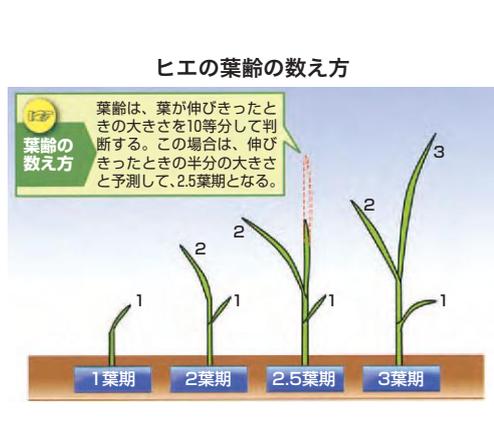


③ 除草剤散布後は、7日間入水・落水をしない
 薬剤の成分を水田にとどめておくことで、安定した効果を得ることができます。河川などに除草剤の成分が流れこむことを防ぐ目的もあります。

① 代かきを丁寧に行う
 代かきを丁寧に行い、田畑を均一にすることで、水持ちがよくなり、除草剤の残効も期待できます。
② 散布時の水深は3〜5cmを保つ
 十分な湛水状態にすることで、有効成分が均一に拡張し、効果が高まります。



初期除草剤・シヨキニー新登場 簡単・軽量の豆つぶ剤
 初期除草剤に5mm大の豆つぶ剤が新登場しました。10㎡当たりの使用量は250gで、手で握りつつ思い通りに散布できます。やや深めの水深にして移植直後から使えます。



葉齢に十分に注意し、早めの防除を心がけましょう。雑草の生育は、田植え後でなく、代かき後から進みます。水田中で葉齢が最大のものを見ることが散布適期を見極めるのに大切です。

やさしい GAP

農薬を使う前に

⚠️ 水稻除草剤の1kg袋と育苗箱処理剤の1kg袋は外観がよく似ています。使用前にもう一度、確認しましょう。



⚠️ **注意事項を 読みましたか**
 周辺作物や環境への影響、農薬を使う生産者への使用上の注意が記載されています。

✓ **量・希釈倍数は正しいですか**
 農薬には剤型によって水和剤、フロアブル剤、水溶剤、乳剤などがあります。

✓ **使用時期と回数は適正ですか**
 農薬は使用できる時期と回数が決まっています。収穫までの日数が確保できるように農薬散布のスケジュールを立てるようにしましょう。使用回数は、有効成分ごとに決められているので、同じ有効成分で商品名が異なる場合や混合剤等を使用する際には、有効成分ごとに使用した回数をしっかりと確認してください。

✓ **作物の適用がありますか**
 ラベルに記載のない作物には使えません。防除対象となる病害虫・草を確認します。「形態が似ているから、作物が同じような呼び名だから」と安易な判断で使わないようにしましょう。

✓ **使用時期と回数は適正ですか**
 農薬は使用できる時期と回数が決まっています。収穫までの日数が確保できるように農薬散布のスケジュールを立てるようにしましょう。使用回数は、有効成分ごとに決められているので、同じ有効成分で商品名が異なる場合や混合剤等を使用する際には、有効成分ごとに使用した回数をしっかりと確認してください。

農薬を使用する前には容器に記載してあるラベルを必ず確認し、農薬ごとに決められた適用内容や注意事項などを守って適正に使いましょう。
 農薬は使用できる時期と回数が決まっています。収穫までの日数が確保できるように農薬散布のスケジュールを立てるようにしましょう。使用回数は、有効成分ごとに決められているので、同じ有効成分で商品名が異なる場合や混合剤等を使用する際には、有効成分ごとに使用した回数をしっかりと確認してください。

